

## 活動紹介

千葉県森林インストラクター会

活動分野	千葉中央・九十九里部会		
タイトル	大和田～勝田台 北総地区に残された自然と、往時の人々の暮らしを探る		
実施日時	平成 29 年 6 月 18 日（日）9 時～13 時		
実施場所	八千代市、千葉市花見川区		
受講者	名	F I C 会員他スタッフ	5 名

### 活動の内容

戦後高度成長期に住宅団地として開発された北総の一角にかろうじて残された自然を辿り、また開発から取り残された（まぬがれた）地域を訪れて往時の人々の暮らしを探ろうという企画です。

地元の Sg さんが今日の案内役です。京成大和田駅に集合、東に第六天神社に立ち寄り進むと、花見川に勝田川が少し不自然に合流する様子と勝田台方面が展望できる高台に到着、ここからの風景は「八千代市の歴史」と云う本のイラスト、「縄文時代の、入江を望む高台からの光景」によく似ています。縄文時代にはこの辺近くまで古鬼怒湾が侵入していたので、このような光景が現実だったかも。

ここから花見川に下り、さらに勝田川沿いの田園地帯に入ります。この辺の斜面林では植物観察が楽しめ、道路沿いには庚申塔や馬頭観音などが点在してゆったりとした田舎道歩きが楽しめます。この地域では明治から大正にかけて養蚕が盛んだったそうで、栽培されていたクワが逸出しているのが多くみられます。また広い敷地と立派な屋敷の農家が多く、「長屋門」を備えた家もあります。でも豊かな農村地帯には必須の広い水田が、勝田川沿いに限られた面積しかありません。Sg さんの鋭い考察では、「これらお屋敷や長屋門もさほど古いものではないようだ。水田が乏しいのに立派な屋敷が多いのは『養蚕による収入』、そう考えれば明治以降に建てられたことが肯ける」とのこと。

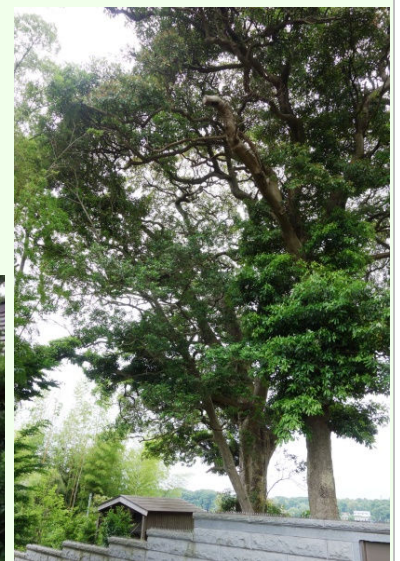
タブノキの巨木を観察して勝田台団地へ、最後に勝田市民の森を訪れ「江戸時代、この辺は鍛冶用のアカマツ炭供給が盛んで、クワ栽培地以外はアカマツ林だった。それなのにマツタケが採れなかったのは何故？」など議論、勝田台駅で解散しました。



花見川と勝田台方面



庚申塔



左：長屋門

上：勝田のタブノキ巨木